

令和6年度第2回石川県防災会議震災対策部会 議事要旨

1 日時

令和6年8月29日（木）13時30分～15時00分

2 場所

石川県行政庁舎6階災害対策本部室（オンライン併用）

3 出席者

震災対策部会長（宮島委員）ほか、委員14名

4 議題

（1）報告

日本海側の海域活断層の長期評価の公表について（文部科学省 地震火山防災研究課）

（2）議事

石川県地震被害想定の見直しについて（事務局）

- ・長期評価を踏まえた被害想定調査対象断層の検討
- ・地震被害想定調査の作業工程

5 議事要旨

（1）議事概要

はじめに宮島部会長からあいさつを行い、部会長の進行で議題に入った。

報告「日本海側の海域活断層の長期評価の公表について」を文部科学省地震火山防災研究課上野寛地震調査管理官より報告し、質疑応答を行った。

議事「石川県地震被害想定の見直しについて」を事務局から説明し、質疑応答を行い、調査対象断層として9断層が承認され、閉会となった。

（2）質疑応答・意見の要旨

- 日本海側の海域活断層の長期評価の公表について（文部科学省提供）【資料1】
 - ・質疑（飯田副部会長）

今回は、兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖の海域活断層の、断層の位置・長さ・形状、そこで発生する地震の規模のみが公表されたが、地震発生確率はいつ頃出てくるのか。
 - ・回答（文部科学省地震火山防災研究課上野寛地震調査管理官）

来月から審議を始め、来年6月を目標に公表したいと考えている。

- 長期評価を踏まえた被害想定調査対象断層の検討【資料2】

- ・ 質疑（青木委員）

⑱舩倉島近海断層帯に関して、舩倉島には定住人口は無いとは言え、夏季には海女さんたちが居住しており、あるいは舩倉の港湾施設等への被害を考えると本当に外して良いのかということは検討が必要ではないか。

- ・ 回答（事務局）

今回の被害想定調査の方法は、シーンごとに、市町ごとに最大の被害となるものを想定し調査を行うこととしており、舩倉島というふうな形で特化した形で調査を行うものではないため、今回お示しした断層での調査を考えている。

- ・ 質疑（中山委員）

舩倉島については、ぜひ単独でも評価をしていただきたい。

- ・ 回答（事務局）

地震の被害は、断層帯の規模で判断されることから、⑳能登半島北岸断層帯は94kmで地震の規模についても今回の中で一番大きいため、この断層帯を評価することによって舩倉島周辺の被害想定も可能と考えている。

- ・ 意見（宮島部会長）

地域防災計画を策定するための被害想定として、舩倉島への影響も十分に反映できるということもどこかに書いておくべきである。

- ・ 質疑（青木委員）

㉑七尾湾東方断層帯と㉒飯田海脚南縁断層は本当に連動しないのか。断層の距離も比較的近いので、これが連動すると合わせて70キロを超えるかなり大きな断層帯になると思われる。また、恐らく㉒飯田海脚南縁断層が珠洲付近の海成段丘を作っており、これが活動すると飯田や蛸島の海岸隆起が想定されるため、海岸施設の被害想定観点からも連動モデルは外しても良いのか。

- ・ 回答（事務局）

今回の長期評価では、連動する可能性のある断層を「断層帯」として評価しているため、断層帯を一つの単位として評価をさせていただくというような形で考えている。

・ 回答（平松委員）

事務局からの説明のとおり、⑳七尾湾東方断層帯と㉑飯田海脚南縁断層は、国の方でも走向が異なるため、連動する可能性は低いということで別の断層帯として評価している。隆起の影響については、能登半島地震の時は、内浦ではほとんど隆起していないことを考えると、位置関係からそれほど大きな隆起の影響はないだろうということが推測される。

・ 意見（平松委員）

被害想定を公表した時に、そこでしか大きな地震が発生しないと受け取られる可能性がある。選定された断層よりも被害は小さいが、十分大きな被害が発生する活断層が他にもあるということが分かるような公表の仕方をすべきだと考える。

・ 意見（宮島部会長）

選定された9断層だけが重要であるような印象を持たれないようにすべきである。あくまで地域防災計画を策定するための被害想定に使用する断層であって、最も危ない断層ではないことを明記したい。マスコミの方にも誤解のないよう伝えるようお願いしたい。

・ 質疑（福和委員）

令和6年能登半島地震を模擬した被害想定をずとした場合、⑯能登半島北岸断層帯の位置づけをどう考えるのか。被害想定精度の検証に使うのか、あるいは能登半島地震により耐震性のない家屋が除却されているので、現在の建物に対する被害想定なのか。前者の場合は、今の被害想定はそこまで精度が高くないため、検証には苦勞するのではないのか。

・ 回答（宮島部会長）

精度の検証というよりも、同じ断層で被害想定を行うと結果がどうなるかを確認する意図である。

・ 回答（事務局）

能登半島地震以前の人口や建物を基に被害想定を行うが、今後復興の度合いによって人口や建物等の数値を入れ替えて想定をし直すことも考えている。

・ 質疑（福和委員）

公表の仕方によっては、被害想定結果と被害実績の差に注目されてしまう可能性があるため、取り扱いが難しい。

・ 回答（宮島部会長）

被害想定結果が必ず正しいという印象を持たれないように、公表の仕方については注意したい。

・ 意見（平松委員）

前回の部会において令和 6 年能登半島地震を踏まえた断層モデルを追加するとしたのは、あらかじめ被害を予測しておくとし新しいまちづくりなどに生かせるため、地震動の評価は先にしておこう、という意図もあったかと思う。また、今回選定されない⑰輪島はるか沖断層や⑱能登半島北方沖断層で単独の地震があったときも、局所的に⑳能登半島北岸断層帯が動いた時とそれほど遜色ないような揺れが近い場所では起こるということもあるため、そういうところで地震が起こった時の震災被害を考えるという意味でも、㉑能登半島北岸断層帯の想定には意味があると思う。

・ 質疑（福和委員）

能登半島地震では、住家と非住家が大体 1:1 くらいの被害になっている。これは空き家被害が非常に多かったからと推察されるが、がれきや家屋解体の問題を考えると非住家も含めた検討が必要になると考えている。今回の被害想定の対象とする建物は、過疎化して空き家が多いところは住家と非住家の扱いをどう考えるか。

・ 回答（事務局）

住家も非住家も対象にして被害想定を行う。

・ 質疑（明正委員）

断層帯の話をしていても一般の人は良く分からない。それを自治会などでどう説明すればよいのか難しい。

・ 回答（宮島部会長）

専門性の高い話なので、専門の人で議論を進め、深めていくことが重要である。一般の方には、地域防災計画を進めるための被害想定が必要で、その対象として、全県を網羅するように選択した断層が今の 9 断層である、という説明が良いと考えている。

・ 回答（青木委員）

基本的にそれぞれの土地で一番大きな揺れになる、一番危険度が高い断層を選んでいく。震度分布図や液状化危険度分布図が出てくると、目でみてわかるようになるため、住民の皆さまに丁寧に説明するのはその段階だと考えている。

- ・ 質疑（畝本委員）

地盤情報を知るのは重要である。地盤モデルのデータや震度分布、液状化分布はどれくらいの精度で公表されるのか。被害想定の結果だけでなく、ベースのデータを一般の方の防災活動に使えるものとして公表してほしい。

- ・ 回答（事務局）

結果に対する減災効果も算定・啓発したいと考えている。個別のデータを提供できるかは要検討であるが、どういったことができるかは今後も検討していきたい。

- 地震被害想定調査の作業工程【資料3】

- ・ 質疑（重川委員）

250mメッシュもしくは50mメッシュで積み上げという想定のはずだが、参考資料を見ると予測単位が市町と書かれているものが多い。被害想定は、県民や行政、企業が何にどう備えるかを考える材料になる。人的被害や住宅等は、どういった単位で公表するのか。

- ・ 回答（事務局）

メッシュ単位で計算をし、それをどの単位で表示するかの問題である。基本的には市町単位で公表する予定ではあるが、計算結果はメッシュごとにあるため、それをどのように活用するかは今後考えていきたい。

以上